

土木学会四国支部「土木紀行」No.14(高知県)

「吾南用水」

吾南用水は、慶安元年(1648年)から5年の歳月をかけて開削された用水である。土佐藩の重臣、野中兼山が仁淀川の河口から8kmの地点に八田堰を造り、灌漑水路(7.2km)を完成させた¹⁾。吾南用水の完成後、水の乏しい吾南平野に耕地が開かれ、農業用水だけでなく防火用水及び地域用水として地域の発展に貢献している。吾南用水の幹線延長は、弘岡、諸木、仁西井筋を始め22kmに及んでおり、現在でも高知市春野地区1,254haの農地に毎秒4.5～6.5m³の水を供給している。

兼山は吾南平野を開拓するため、八田堰から弘岡井筋への大用水路を設ける計画を立てた。吾南用水が分布する地域を図-1、写真-1、写真-2に示す。吾南用水の建設は、川の流れの激しさや硬質な岩盤地帯が存在するなどの難点があり、作業にかかる労力は非常に大きなものであった。当時の職人の知恵と苦労は専門家の調査によっ



図-1 吾南用水周辺²⁾

て詳しく記録されている。硬質な岩盤が存在した地域は、いの町八田と高知市春野弘岡上との境であったといわれている。この堅い岩盤を掘り抜くために、農家



写真-1 八田堰¹⁾



写真-2 吾南用水(高知市春野弘岡)

からイモのズイキ（葉の根元）を大量に徴収して岩盤の上で燃やし、岩を割れやすくしながら、金づちとノミで少しずつ割り取る工法をとっている。これが、この工事最大の難関の「行当(ゆきとう)の切抜き」である。さらに、甲殿川の河口ではたびたび土砂が堆積し水の氾濫が頻発していたため、高知市春野東諸木と高知市長浜の境では西戸原辺りから長浜へ水路を変更する「唐音（からと）の切抜き」工事を行った²⁾。こうして深いところで1丈2尺(3.6m)、浅いところで6尺(1.8m)、幅は平均6間(11m)の大用水路が完成し、吾南平野に潤いをもたらすとともに、城下町へ通じる物産の輸送路として大きな役割を果たしたのであった。なお、昭和3(1928)年より3ヶ年あまりをかけ、鉄とコンクリートによる近代技術で大改修され、当時より規模は小さくなっているが、現在も吾南平野の灌漑に大きな役割を果たしている。

現在では、高知市春野の吾南用水周辺に地域住民の手によってあじさいが植えられ、あじさいの咲く地域づくりと位置づけて環境美化運動が行われている。あじさいの植栽は、豊作を願って行われたことが始まりであり、約1万本ものあじさいが約5kmにわたって分布している。あじさいの見ごろは5月下旬から6月上旬であり、これらの花の帯は「あじさい街道」³⁾と呼ばれ多くの人々に親しまれている（写真-3、写真-4）。

皆さまも一度ご訪問下さい。

参考文献

1) 疏水名鑑

<http://www.inakajin.or.jp/sosui/kochi/a/496/message.html>

2) 広谷喜十郎:野中兼山と春野、高知市広報「あかるいまち」2007年12月号

3) あじさい街道

http://www.kojyanto.net/kochi_inf/kochi-meibutu/ajisai/

(高知高専専攻科建設工学専攻2年小栗晶子)



写真-3 あじさい街道(高知市春野)



写真-4 あじさい街道(高知市春野)